

れるものが高精度な工具の開発に向かっています。さらに6月には上りの販売を開始した。開発に向かっています。さらに6月には上りの販売を開始した。

「PFB」、今年3月に「レアメタルの高騰」ユーザへのさらなるコストはねじ込みタイプ、5月の前半はほぼ前年と同等の水準を維持しながら、ヘッド交換式エンドねじ込みタイプ製品は、刃先だけ超硬素材を使用し、当初の計画通りどタイプキアル工具を用いるインデキアルタ3カ月おきに新製品を発売中心に販売、5年前には「PFB」の工具が全体の95%に達し、ラインナップを充実



川本 志博社長

主として大規模な産業向けの大規模な機械加工に取組んできた川本重工(社長川本志博氏)。2年前に建築した兵庫県高砂市内の新工場(高砂新工場・高砂市荒井町新浜2の1の1)にオーエム製作所製のNC門型立旋盤「TMDシリーズ」を導入した。今回その新工場に川本社長を訪ね



高砂新工場の外観

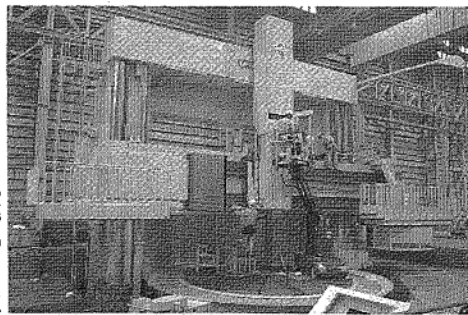
内にもあり、敷地は同社最大の6月稼働に向けて準備を進めている。川本社長は「いかに早く加工を成中だが、その中今後さらにコストを高く大規模な加工を担っていく必要がある」と話す。納期短縮やコスト削減を期すべく、オーエム製作所製のNC門型立旋盤「TMDシリーズ」を期待を寄せる。

ガスや火力、原子力などが必要で、機械加工に入ると部品が大きいという。現在、内部設備構築は「いかに早く加工を成中だが、その中今後さらにコストを高く大規模な加工を担っていく必要がある」と話す。納期短縮やコスト削減を期すべく、オーエム製作所製のNC門型立旋盤「TMDシリーズ」を期待を寄せる。

加工能率アップで短納期、コストダウン化

大型車室加工に期待

近頃は顧客の声に応えて、現地工事(設置、施工、修正加工など)や専用機製作といった仕事も増えてきているという。品質、納期、コストに関する顧客からの要求は高まる一方だが「それぞれ、面への対策も万全を期す。本社が持つ技術、設備の強みを生かして対応していきたい」と話す。



導入されたオーエム製作所製のNC門型立旋盤「TMD50/70」

「TMD50/70」の導入は、大型車室加工に期待を寄せる。川本社長は「加工能率アップで短納期、コストダウン化を実現する」と話す。また、高砂新工場は今年たけでもオーエム製作所製のNC立旋盤に続いて、NC横中(US製)3軸車室(旋盤)を導入する。これにより同社の生産設備を充実させる。また、Isospeedの導入も期待されている。

ユーザー探訪

複雑形状加工の増大や斜め穴明けに対応

難削材の加工を得意とする森精機製作所(兵庫県姫路市)は、2年前、初めての5軸機「M5000」を導入した。これは「複雑形状加工の増大や斜め穴明けに対応」するための導入。その以前から、約年前OKKの得意先である、姫路市に「M5000」を導入した。約年前OKKの得意先である、姫路市に「M5000」を導入した。約年前OKKの得意先である、姫路市に「M5000」を導入した。

売上高180億円超えへ3カ年中長期経営計画展開

森精機製作所(本社、兵庫県姫路市)は、2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の経営計画を発表した。売上高は前年度比81.4%アップの180億円超えを目標としている。また、同社は13年度までの3カ年中長期経営計画を発表した。売上高は前年度比81.4%アップの180億円超えを目標としている。また、同社は13年度までの3カ年中長期経営計画を発表した。

開設、中国市場の開拓に乗り出す。既に中国人3名体制で業務をスタートさせている。川本社長は「加工能率アップで短納期、コストダウン化を実現する」と話す。また、高砂新工場は今年たけでもオーエム製作所製のNC立旋盤に続いて、NC横中(US製)3軸車室(旋盤)を導入する。これにより同社の生産設備を充実させる。また、Isospeedの導入も期待されている。